

ネイチャーセンター準備室だより 志津川湾産のイセエビ

マダコの記録的な豊漁でにぎわった2017年秋、実はもう一つ意外な生きものが湾内で多く見られていました。それが「イセエビ」です。名前のとおり伊勢湾が名産のエビで、茨城県以南に分布するとされます。しかし、志津川湾内でもかご漁や養殖筏^{いかり}にくっついて上がってくるというのです。大きさは数センチほどの小さなものばかりのことなので、南から流れる海流「黒潮」に乗って幼生が志津川湾まで遠征してきたのでしょう。きっと冬には冷たい水に耐えられずに姿を消すだろうと思っていました。

ところが、2018年の夏以降、志津川湾内で20cmを超えるような見事なイセエビが次々と漁獲さ



れたのです。これは、イセエビたちが湾内で冬を越していた大きな証拠です。昨シーズンは、水温などの環境が冬を越せる状態だったのでしょうか。自然の環境は常に変化を続けています。そのきざしを察知したり、予測したりする上でも、こうした海の生きものたちに目を向けることは重要なことなのです。

農林水産課 ネイチャーセンター準備室 ☎25-9703

毎月11日は「南三陸町安全・安心の日」

～1月11日は「家庭内・企業内の防災会議の日」です～

家族や社員が一同に会する場も多いこの時期に、非常食や飲料水の備蓄の状況、非常持出品の保管場所などについて確認を行いましょ。

町では、非常食や飲料水などの「3日分の備蓄」を強くお願いしています

町などの公的機関が町民全員分の食料（例：1万5千人×3食×3日＝13万5千食 乳幼児向けの対応・アレルギー対策なども必要）や飲料水をあらかじめ保管し、これを迅速かつ的確に行き渡らせることには、やはり限界があります。

この機会に、3日分としてどういったものをどのくらい備蓄しているかについて確認し、家族や社員の皆さんでその情報を共有しましょう。大規模な災害発生時に限らず、停電などの際にも役立ちます。



家族や社員がそれぞれの避難場所・緊急連絡先などを確認し、情報共有しましょう。

安全な高台などの避難・集合場所、緊急時の連絡方法・連絡先を確認しましょう

より高い場所・より安全な場所について話し合い、確認しましょう。また、家族や社員が外に出る時には、それぞれが避難を予定する場所などの情報を共有しましょう。

こうした取り組みは、大規模な災害の発生時における迅速な安否確認にも役立ちます。

「減災」は、皆さん一人ひとり、そして家庭や企業における取り組みが基本となります。この1年も、「自助」や「共助」としての取り組みについてよろしくをお願いします。

総務課危機対策係 ☎46-1376

新年のごあいさつ



復興へのラストスパートに向けて

南三陸町議会議長 三浦 清人

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、健康やかに新年を迎えられましたこと、心からお喜び申し上げます。また、旧年中は、町議会の活動に深いご理解とご協力を賜り、心から厚く感謝申し上げます。昨年を振り返りますと、各種の復興事業が着実に進展する中、志津川保育所や学校給食センターといった町の子育て・教育施設の完成、県道・国道の開通、駐在所や結の里の開所など、安心・安全な町づくりが着実に歩みを進めておりますことを実感

できる年でありました。そして、本年においては三陸沿岸道路のさらなる延伸、生涯学習センターの落成などを控えております。これもひとえに、今もなおご支援をくださる方々のお力添えと、町民各位のご努力のたまものと、衷心より感謝を申し上げます。生活基盤が着実に整いつつありますが、本町は人口減少問題など、新たな課題に立ち向かい、復興を成し遂げなければなりません。本町の復興計画に定めた平成三十二年度のゴール地点が見えてきた本年、議会といたしましても、これまで以上に町

民に開かれた議会活動を展開し、これまでの復興に向けた取り組みを見つめ直しながら、復興というゴールへ向かってまい進してまいる所存であります。今年も町議会に對しまして、なお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸、そしてさらなる飛躍の年となりますことを心よりご祈念申し上げます。新年のあいさつとさせていただきます。



創造的復興と 新たな時代の幕開けに

南三陸町長 佐藤 仁

新しい年の始まりにあたり、一言ごあいさつを申し上げます。町民皆様におかれましては、穏やかに新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。昨年は、東日本大震災からの復興に向けた発展期後半において、本町の地方卸売市場が、宮城県で初めて「優良衛生品質管理市場・漁港認定」を取得したことに加え、志津川湾が、特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約「ラムサール条約」に、海藻藻場としては国内で初めて指定登録がなされるなど、改めて、本町を抱く豊かな自然、とり

わけ、海がもたらす恵みを実感した一年でありました。また、平成の森野球場における夏の甲子園予選の開催や、過去最高となる六万人超の入場客となったサンオーレそではま海水浴場のにぎわいなど、これまでに推し進めてまいりましたハード整備が活用されたソフト面の復興と、そのさらなる進展の可能性を感じた一年でもありました。本年は、「生涯学習センター」の完成により、志津川公民館および新たな図書館の供用開始を予定しているほか、志津川市街地区画整理事業における換地処分完了が予定され

るなど、コミュニティの再構築やなりわいの再生、その発展に向けた基盤が確立するところでありました。今後におきましても、創造的復興の完遂に向け、引き続き各種施策を強力に展開してまいりますので、町民皆様の変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。結びに、平成から新たな時代を迎えることとなる本年が、町民皆様にとりまして輝かしい幕開けの一年となりますよう心からお祈り申し上げます。新年のあいさつといたします。